

麦の穂

74
平成30年
1月10日発行

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 攻

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

新年御挨拶

平成30年元旦
医療法人光臨会
理事長 荒木 攻

皆様、明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。又、昨年は私が会長を拝命した第20回日本臨床脳神経外科学会を広島国際会議場で開催した際には、多くの皆様の御支援により無事学会を終えることが出来たことを、改めまして紙面をお借りし、深謝申し上げます。

さて、今年には6年に一度の医療・介護報酬同時改定の年となりました。薬価を引き下げた分を本体部分に乗せるという話ですが、どのようなところに到着するのでしょうか。

年々厳しくなる国家の医療財源を一部使わせてもらって、我々は地域の皆様に医療を提供しております。「患者中心の医療」という理想を掲げて、安全で質の担保された医療を行ってゆくためには、医療機関の「経営基盤の確立」が欠かせませんが、度重なる医療制度改革の流れに追随してゆかないと経営基盤があやしくなってしまうため、ともすると患者中心の医療という中の主役の患者が忘れられて、経営中心の医療となってしまうようなこともあります。流れに掉させば大きな勢いになるものはないのでしょうか。

大きな流れは私達の領域では脳血管内治療でしょうか。当院は開院以来、脳神経外科専門病院としての立ち位置を守ってまいりましたが、31年前の開院の頃は開頭術の全盛時代でした。病気は手術よりも薬、薬よりも予防で治療できるのが究極の目標となります。この傾向が手術でもより侵襲の少ない「less invasive」の方向にあります。私達はこういう意味で近年、血管内治療に着目しております。今、広島市の人口は2015年をピークとして2040年までの間に約10万人減少すると推計されております。そういった中でも、脳血管疾患は増え続けると予想されています。そんな中でも一刻一秒を争って治療を開始しなければならないのが、「超急性期脳梗塞の治療」であります。21世紀に入った時、厚生省（現 厚労省）は健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）を推進し、その中で脳梗塞の積極的治療を掲げました。その後押しのおかげでこれまでの点滴治療から、脳動脈内の血栓をカテーテルを通じて除去する「血栓回収術」が普及しつつあります。これには、ステント・リトリーバー（トレボ、ソリティア）とか吸引カテーテル（ペナンプラシシステム）が用いられて有効再開通率が約80%といわれています。これは極めて有効な治療法ですが、病院に搬送されてから血栓回収までの時間（Dtp）短縮が極めて重要です。30分の再開通の遅れが死亡率を19%上昇させ、予後良好を22%低下させるといわれております。このため全国の超急性期脳梗塞の治療に取り組んでいる医療機関は一生懸命にこのDtp時間の短縮に励んでいます。当院でも2015年12月から2016年11月の間40症例のDtp時間をみると、中央値で89.5分から40分に短縮しており、このことは当院でのチーム医療の成果であると考えています。血栓回収術を行っている全国150施設の調査で、目標とされるDtpの60分以内の施設はまだ16%ほどですが、今後各医療機関の努力によって、短縮が図れるものと思います。ところがその調査の中で、大きな問題が横たわっていました。どんなに来院から治療開始までの時間を短縮しても、発症から病院到着までの時間は短縮されていないことがわかりました。このため今、当院では、発症時的確に脳梗塞か否かを判定するべく、兵庫医大との協同研究で「病院前脳卒中病型分類スコア」を用い、救急隊と一緒に、その時間短縮に取り組んでいるところです。これこそ、超急性期脳梗塞の治療の流れに掉さすものと信じております。



もくじ

- 1 新年御挨拶
- 2 院長就任のご挨拶
- 3 地域連携推進部門の紹介
- 4 第15回広島NST研究会 広島NSTAWARDを受賞
西区民まつりに参加して / ソフトボール大会に参加して
- 5 連携医療機関のご紹介 —— さとう脳神経外科クリニック ——

院長就任のご挨拶

平成29年10月1日付で、沖 修一 前院長の後任として院長に就任いたしました、荒木 勇人（あらかい はやと）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、平成13年に広島大学脳神経外科教室に入局し、その後、地域の拠点となる医療機関で臨床経験を重ね、平成27年に当院に着任しこのたび院長を拜命いたしました。専門は脳神経外科で、特に脳血管内治療に力を入れております。

さて、皆さまは「2025年問題」をどのようにお考えでしょうか。7年後の2025年には、これまで地域を支えて下さった団塊の世代の方々がすべて後期高齢者になられ、4人に1人が75歳以上という超高齢化社会となります。

今後、医療や介護への需要がますます高まる一方、社会保障の財政バランスの危機が叫ばれ、その打開策のひとつとして各都道府県で地域医療構想が策定されました。その実現のため地域医療構想調整会議が本格化し、急激な人口構成の変動に備えた地域医療提供体制の見直しが行われます。

昨年、当院 理事長 荒木 攻が、第20回日本臨床脳神経外科学会の大会長を拝命し、7月15・16の両日、広島国際会議場にて「2025年問題に向けて～脳神経外科のあり方を展望する～」というテーマで学会を開催しました。われわれ脳神経外科の果たす役割は、脳神経外科領域の患者の救命・治療を行うとともに予防を行うことで、脳神経外科疾患の早期発見・発症予防にも貢献し、地域住民の安心で安全な生活を守り健康と公衆衛生の向上に寄与し続けることを確認しました。

その中で、当院は広島医療圏域における脳卒中専門病院として、今後この地域で担うべき役割をしっかりと予見し、地域に求められる医療を提供するため、様々な対応をしていく必要があると考えております。

最後に、当院の理念のもと、沖 修一 前院長の意志を引き継ぎ、職員が一丸となり近隣の医療・介護機関の皆さまと連携を密に取り、地域住民の健康増進に一層貢献できる病院にしていきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます

荒木脳神経外科病院 院長 荒木 勇人



新院長 荒木 勇人



荒木脳神経外科病院 理念

- 一、脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 一、急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

地域連携推進部門の紹介

荒木脳神経外科病院も今年で32年目となりました。昨年10月には院長が沖修一先生から荒木勇人先生に交代され初めての年を迎えています。

地域連携室は今年で16年目を迎え、初年はソーシャルワーカー1名で始まり診療を支援する一部署でしたが、病院機能の拡大に伴い昨年より地域連携を推進する一部門となり現在は8名の職員が配置されています。超高齢社会を迎え地域完結型医療が加速度的に進む中、地域連携推進業務を再評価し、病院機能の強化に取り組むには組織の再編成が必要となりました。「脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します」という病院理念の下、これまでの地域連携室と総合相談室を院長直轄の部門として地域連携推進部門を新設し、それぞれの機能を充実強化させ運営しています。

メンバーは看護経験豊富な看護師3名を増員し、地域連携推進部長に看護部長、副部長に関連事業部長（看護職）が兼務し、室長はソーシャルワーカー、看護師長、3名の担当ソーシャルワーカーと事務職1名で日々協働しています。また、病棟には退院調整看護師を配置し、臨床との連携がよりスムーズになるよう取り組んでいます。メンバーの増員により、これ迄以上に前方連携、後方連携上の課題にも充実した対応ができるものと考えています。更に、経験豊富な看護師が配置されたことにより患者様の課題や問題点にも具体的できめ細やかな対応が迅速にできるようになったと自負しています。

ご存知の通り今年の診療報酬改定は医療・介護の同時改定であり、地域完結型医療の提供における入院医療の機能分化・強化が更に進むと思われれます。また、西区在宅あんしん病院の地域拠点病院としての役割も大きく重要であることは言うまでもありません。

私たち地域医療連携推進部門がその役割を精力的に発揮し、地域連携に関する統括管理をすることで、更に地域貢献できるものとスタッフ一同身を引き締め新たな年を迎えています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

地域連携推進部長 石田 榮子



地域連携室の様子



地域連携推進部門職員

第15回広島NST研究会 広島NSTAWARDを受賞

演題：脳卒中患者の急性期から回復期リハビリテーションへの動向分析
 ー栄養状態、体組成変化とFIM改善との関連ー

平成29年2月の第32回日本静脈経腸栄養学会で当院より発表した演題が優秀演題のひとつに選ばれ、また11月に開催された第15回広島NST研究会にて審査の結果、第1位に選ばれ表彰されました。

脳卒中発症から回復期リハビリまで数か月間の長期入院での治療を検討し、栄養状態は全期間で良好でしたが、発症後の急性期では筋肉量の低下が著しく、回復期ではリハビリ効果もあり筋肉量は維持出来、体脂肪量が減少している事が経時的な体組成測定評価で判りました。また高齢者のサルコペニアも半数近く存在し、今後更に急性期での筋肉量減少を抑えるべく栄養、リハビリを改善し治療成績を上げる所存です。

診療部：外科 藤井 辰義



広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授 田妻 進先生より授与

西区民まつりに参加して

平成29年11月5日(日)に広島サンプラザと西部埋立第五公園で開催された第33回西区民まつりに参加しました。

ブースでは前回同様に、高精度体成分分析装置 Inbodyによる筋肉・体脂肪バランス検査、長く健康に生活するための体力が保っているかをみる体力測定、そして白衣やナース服を着てお医者さんや看護師さんになりきるキッズ撮影会のコーナーを設けました。

当日は日差しの穏やかな好天に恵まれて、総勢220名余りの地域の方が当院のブースを訪れてくださいました。皆さまには健康を保ち続けることへの意識を高め、また医療や看護への興味をお持ちいただけたのではないかと思います。

当院では、今後もこのような地域活動を継続していき、地域住民の皆様が健やかな生活を送り続けられるよう支援をしていく所存です。

地域連携推進部門 地域連携室 室長 佐々木 洋



スタッフの集合写真

ソフトボール大会に参加して

平成29年10月8日(日)、広島県医師会ソフトボール大会に参加しました。ソフトボール大会ではA～Dブロック、48チームが参加しています。当院はCブロック12チームのトーナメント戦を戦いました。

チームは副院長の江本先生を中心に放射線科、臨床検査科、臨床工学科、看護部、リハビリテーション部など様々な部署からメンバーが構成されています。

初戦は11-1と敗戦、その後行われた敗戦チーム同士の対戦でも16-8と敗戦してしまいました。

昨年は全敗となりましたが、チームのために声援を送り、ファインプレーに皆なで喜び、守備の乱れはお互いにフォローし、チーム一丸で戦えたことがなによりも素晴らしいことだと思いました。

当院の病院理念でもある、高機能で質の高いチーム医療を提供するためにもスポーツを通じて、よりよい関係構築できたと思います。

診療放射線部門 出海 弘章



キャプテン 江本 克也先生

連携医療機関のご紹介

さとう脳神経外科クリニック

住 所：〒734-0005 広島市南区翠2丁目5-6

T E L：082-254-3211

F A X：082-254-3212

診療科目：脳神経外科

資格など：医学博士、日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、
日本救急医学会専門医、広島地方裁判所専門委員

院長名：佐藤 秀樹

病院URL：http://www.satoh-clinic.jp/



院長 佐藤 秀樹先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	-
14:30~18:00	●	●	-	●	●	-	-



平成21年6月に南区翠町に開院し、おかげさまで今年で9年目を迎えました。クリニックは広島大学病院と県立広島病院のちょうど中間に位置しています。

開院時には、荒木理事長から多くのご助言をいただき大変お世話になりました。また荒木院長とは以前に県立広島病院で一緒に脳外科診療に当たらせていただきました。沖名誉院長と江本先生は、脳外科入局以来ずっとおつきあいさせていただいています。

距離的に離れているため病診連携の機会は少ないのですが、西区の患者様が受診された際には、荒木脳神経外科病院を受診するように説明しています。荒木脳神経外科病院の前に救急車が停まっているのを見るたびに、先生方や多くのスタッフの皆様が地域医療に真剣に取り組んでおられることを思いおこし、ともするとマンネリに陥りやすい一人での診療を奮い立たせて救急の患者様もできるだけ受け入れるようにしています。

翠・皆実町地区も高齢者世帯が多く、独居の方や認知症患者さんもおられ、地域包括支援センターから相談を受けることも増えてきました。一人でできることは限られていますが、「患者さんのために」をモットーに可能なことをこれからも継続してまいりますので、今後とも引き続きよろしくをお願いいたします。



医療法人光臨会 理念

- 一、皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院 理念

- 一、脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 一、急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

- 1. 「医療の原点は救急である」
- 2. 快適な療養環境と接遇の提供
- 3. チーム医療の推進と相互啓発
- 4. 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います

1. 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
2. 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
3. 医療に関して知る権利を尊重します
4. 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
5. 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
6. 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します
7. 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

1. 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
2. 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。



外来担当医表

平成29年10月1日～

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診)	渋川	中原	沖	江本	荒木(勇)	广大
		初再診(2診)	荒木(勇)	谷	江本	沖	渋川	谷
		初再診(3診)	沖	太田	加納		加納	
	午後	初再診	谷	加納 (1・3・5週) 沖 (2・4週)	广大	加納	沖	广大 江本
脳神経内科	午前	初再診(3診)				青木		
総合診療 (内科・外科)	午前	初再診(4診)	野村	浅本	藤井	浅本	藤井	野村
	午後	初再診(4診)	藤井	浅本	野村	浅本	野村	野村
	午前	検査		浅本		野村 浅本		
	午後	検査		浅本	野村	浅本		
脳神経外科 消化器内科	午前	初再診(5診)		荒木理事長				井上

診察時間

◆完全予約制

- 午前 9時～12時
(初診受付：午前 11時 30分迄)
- 午後 3時～6時
(初診受付：午後 5時 30分迄)

救急は 24 時間受付けております

※井上名誉教授
第1土曜日 月1回

医療法人光臨会



荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス http://www.arakihp.jp

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-527-1123 FAX 082-527-1127

デイサービス あらき

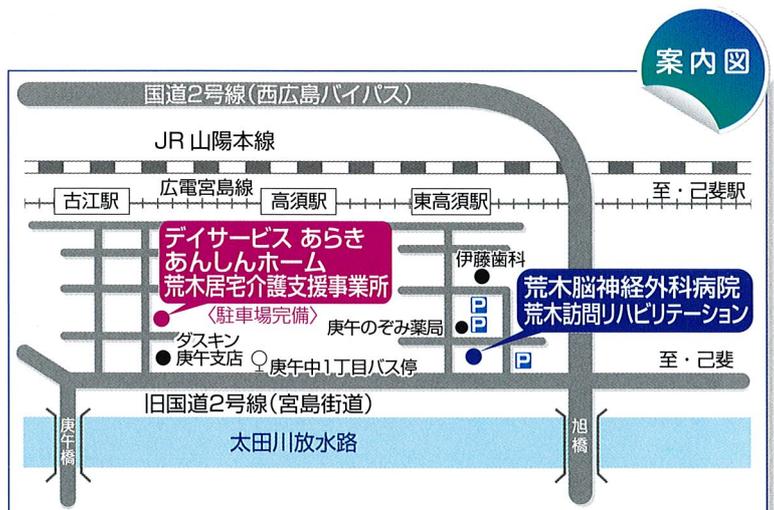
〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6100

あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6600

荒木居宅介護支援事業所

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6300



- 自動車
西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m(宮島街道沿い)
- 広島電鉄・宮島線 / 「東高須」下車 徒歩3分
- 広島バス25号線 / 「庚午北2丁目」バス停前

お知らせ

平成29年11月27日に当院関連施設である荒木居宅介護支援事業所が、あんしんプラザ1階へ移転しました。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。